

# I 令和元年度の運営総括及び来期の課題

平成19年9月の開館から丸12年を迎えました。今日まで、述べ50万人を超える来館者が、白根児童センターを利用してくれました。平日の午前中や土日を中心に乳幼児親子が多く訪れ、『リラックスカフェ』や『ちびっこ広場』、『ちびっこ工作』などの定例行事のほか、『ちびっこ七夕』や『ちびっこプール』、『ハロウィン』、『ミニミニ運動会』、『クリスマス会』、『ちびっこ豆まき』などの季節行事を楽しみに参加してくれる様子がみられました。また、午後からは、小学生が元気に児童センターに来館し、館内に賑やかな声が響きます。アリーナでは、バスケットボールやバレーボール、サッカー、卓球、バドミントン、大縄跳び、一輪車、バランスボールなど、様々なスポーツで汗を流す姿が多く見られました。工作室ではジグソーパズルや塗り絵、ミニ凧作りを楽しむ小学生も多く、白根の伝統が子どもたちに受け継がれていることを実感しました。また、『作って遊ぼう』や『小学生タイム in アリーナ』、『折り紙教室』などの定例行事のほか、『入学・進級お楽しみ会』や『夕涼み会』、『ハロウィン』、『クリスマス会』、『アリーナをきれいにしよう』、『お正月遊び』などの季節行事にも多くの小学生が参加し、同学年のみならず異学年で楽しむ姿が見られました。クラブ活動も、『イングリッシュクラブ』や『ピアノ連弾クラブ』、『ファンシークラブ』、『クッキングクラブ』、『ハンドベルクラブ』『グリークラブ』『けん玉クラブ』で子どもたちが生き生きと幅広く活動する姿が見られました。夕方からは中学生の来館も多く、アリーナでスポーツを楽しんだり、図書室や工作室で勉強したり、談笑する姿もありました。また、移動児童館で、近隣の保育園や幼稚園、ひまわりクラブに出向き、カプラ遊びや音楽あそび、英語遊び、絵本ゲームを行ったり、夏休みには小学生たちが幼稚園や保育園に出向き、幼児さんと一緒に遊ぶ移動児童館も企画しました。遊びを通して、子どもたちは創造力や集中力を養い、学年や年齢が違う子どもたちが触れ合う中から、思いやりの心や譲り合う気持ちを育ててきました。子ども同士が集う中、時には自分たちで考え、行動をするよう促すことで、切磋琢磨しながらも成長する場面を目にしてきました。児童センターで過ごす子どもたちを見守る日々の中で、子どもたちの声に耳を傾け、時には叱咤激励をしながら、ともに歩みを進めてきました。毎年、4月になると、まだあどけなさが残る新小学1年生の子どもたちが、元気に児童センターに駆け込んできたり、真新しい制服を身にまとい、新中学1年生や高校1年生が顔を出しに来る姿も見られます。小さいころから通っていた子どもたちが社会人になってからも、時折立ち寄っては笑顔で近況を話す姿も多くみられるようになりました。長い年月の中で、たくさん子どもたちと出会い、子どもたちの成長に寄り添ってきたごく当たり前の日常が、児童センターの中で過ごす子どもたちにとって、かけがえのない時間として積み上げていっていることを実感します。現在は、新型コロナウイルスの影響で利用や行事が制限されているが、利用者が安心・安全に利用でき、子どもたち、保護者の気持ちに寄り添い、居場所となるような運営をしていきたいと思えます。

## 1. 乳幼児事業

### (1) 総括

乳幼児親子の中には母親のみならず、父親や祖父母の姿も多く見られました。頻繁に足を運んでくれる親子も多く、来館するたびに子どもの成長を共に実感することが出来ました。南区の『子育てオーエンジャー☆みなみ』や『子育て安心ささえ隊 3739』の方々と連携を取りながら、子育てをする母親支援に努めてきました。また、講座・広場開催を通して、母親同士が情報共有できる仲間づくりにも焦点を当ててきました。

#### ① ちびっこ広場

ちびっこ広場は月に1回、11時から遊戯室で行っています。絵本の読み聞かせや手遊び、スキンシップ遊び、体操、ミニ工作など、毎回、企画内容を変えて、親子で一緒に楽しんでいました。また、お誕生会も行うことで、その月の誕生日の子どもはもちろん、他の親子も一緒にお祝いをし、子どもの成長発見の場にもなります。

#### ② 季節行事

季節行事である『七夕おたのしみ会』、『ミニミニ運動会』、『ハロウィン』、『クリスマス会』、『ちびっこ節分』では、多くの乳幼児親子が集まり、賑やかに楽しんでいました。

#### ③ちびっこ工作

毎月2回、連続した日に行っています。幼児向けの簡単な工作を親子で楽しみながら取り組んでいます。出来上がった作品は、その場で遊んだ後、持ち帰ってもらっています。家庭では触れる機会が少ないはさみを使うなど、指先を使った内容を取り入れています。また、牛乳パック・食品のトレーなど身近にある素材を使って、家でも楽しめる工作も提案しています。

#### ④リラックスカフェ

毎週木曜日に小プレイルームで行っています。好きな飲み物を飲んだり、子どもたちをゆったりと遊ばせながら談笑したり、母親同士の情報交換の場になっています。隔週でハンドトリートメントも実施していて、職員に悩みを打ち明けたり、近況を話していく母親の姿も多く見受けられます。絵本の読み聞かせも行っています。

#### ⑤保育園児・幼稚園児の交流会

10月の『ハロウィン』に白根保育園、諏訪木保育園、あかねこども園、カトリック幼稚園、古川保育園、月潟保育園、そよ風保育園、小林保育園の計8園の年長児が参加しました。他園の子どもたちとグループを組んで、館内に用意された遊びやゲームを楽しみました。グループ行動の中で、他園の子どもたちとの交流はもちろんのこと、思いやりの気持ちと自立心が育まれるなど、子どもたちの成長を垣間見ることが出来ました。

#### ⑥移動児童館（カプラ遊び・ 英語で遊ぼう&音楽遊び）

児童館をより広く知ってもらうために移動児童館を行い、保育園・幼稚園・ひまわりクラブを訪問しました。『カプラ遊び』は、フランス生まれの積み木を使って、『つくってあそぼう』をテーマに、飛行場や動物園を作ったり、タワーを作ってジェンガ遊びなど、様々な遊びを展開させて、カプラの楽しさを伝えてきました。『英語で遊ぼう&音楽遊び』は、音楽に合わせて英語で歌を歌ったり、英語の指示でゲームをしたり、楽しみながら英語に触れてきました。各園から喜んでもらうことができたので、今後も継続していきたいと思います。

#### ⑦『子育て安心ささえ隊<sup>みなみく</sup>3739』との共催事業

7月に『ママヨガ』の講座を母子分離で行いました。ヨガのインストラクターの指導の下、日頃子育てで疲れている体をリラックスさせたり、メンテナンスする方法を教えてもらいました。『子育て安心ささえ隊3739』の活動を通して、「子育て中の母親が元気になってもらいたい。」という思いを胸に共催で実施しています。

#### ⑧『子育てオーエンジャー☆みなみ』の方々との共催事業

5月、7月の2回『ほっぺちゃんひろば』を開催しました。3月にも予定していましたが、新型コロナウイルス対策で閉館になったため、今年度は2回開催となりました。ハンドトリートメントや絵本読み聞かせ、ピアノ演奏を行いました。ハンドトリートメントは、リラックス効果もあり、とても好評でした。ピアノ演奏中は、子どもたちも、母親と一緒に静かにピアノに耳を傾けていました。子ども同士を遊ばせたり、母親同士も会話を楽しむなど、つながっていく様子が見られました。来年度も継続事業の予定です。

### （2）来期の課題

母親支援と親子のふれあいを重点に、地域とともに講座や広場、行事を執り行ってきました。休日を中心に、父親と幼児と一緒に来館する姿を多く目にします。行事や季節のイベントに、父親も一緒に参加する様子も見られました。今後、母親のみならず、祖父母や父親が参加してくれるような行事内容を考えていくとともに、父親向けの講座の開催を考えていきたいと思っています。男性の視点で子育ての意見交換の場を設けていきたいと思っています。

## 2. 小学生事業

### （1）総括

平日は、習い事や学校の帰りが遅くなり遊びに来館する子が少なくなっていますが、核家族化で共働きが多く、子どもたちが日中を安心安全に過ごせる場として、児童センターが『第二の我が家』のように過ごす子どもたちの姿が多く見られます。中学年からは「ピアノ連弾クラブ」「ファンシークラブ」「クッキングクラブ」などのクラブ活動に対しての参加意識が高いです。また、塾や習い事に通えない子どもたちが目につく地域課題から、学習支援に取り組み、安心して学ぶ機会を作ってきました。また、白根コミュニティ協議会から金銭面で協力していただくなど、幅広い事業内容で取り組むことができました。今後も、子どもたち

の成長に寄り添い、地域の中で子どもたちが健やかに育つ『居場所づくり』に力を注ぎたいと思います。

#### ①自主クラブ活動

##### 【ピアノ連弾クラブ】

ピアノ連弾クラブは9年目になりました。12月のラスペックホールでの音楽発表会を目標に、ピアノに触れて音楽を楽しんできました。発表会が近づくと、自主的に練習に訪れる子どもも多く、年々難しい曲に挑戦してきました。200名を超える観客の中、ステージで全員がしっかり弾くことができました。大きな舞台で発表できたことで、子どもたちの達成感と自信につながりました。大きな目標に向かって、お互いを思いやりながら連弾する素晴らしさを体験させることができました。

##### 【イングリッシュクラブ】

白根コミュニティ協議会主催で、小学4年～6年生を対象に行いました。毎週土曜日に講師の指導の下、テキストを使って英語の学習を行いました。英語に親しみながら、簡単な単語を使って話すことを目標にしました。12月のクリスマスコンサートでは英語の歌を披露したり、3月には英語劇などの発表会も予定していましたが、閉館に伴い実施ができなかったのが残念です。保護者からも好評で、来年度も引き続き開催できるように計画していきたいと思います。

##### 【ファンシークラブ】

小学2年生～5年生までの15名が、スライムやスノードーム、写真立てなどを手作りしました。2月の冬まつりでは、今まで作った作品を展示し、多くの来場者に見て楽しんでいただきました。

##### 【クッキングクラブ】

小学3年生～5年生までの11人が参加。白根地域生活センターの調理室をお借りし、食育の一環として、ビビンバやフルーツあめ、クレープなどを作って食べました。

##### 【ハンドベルクラブ】

小学2年生～5年生までの11人が参加。童謡やクリスマス曲など様々な曲に挑戦し、幼児の七夕会やあきまつり、幼児クリスマス会、クリスマスコンサートでハンドベル合奏を披露しました。

##### 【けん玉クラブ】

けん玉遊びが好きな5年生男子の「中学生になってもけん玉をしに来たい。」という声がかっかけとなり、今年できたクラブです。3年生～5年生までの計5名が参加。月2回集まって練習をしたり、クリスマスお楽しみ会では技の発表を行いました。練習内容もクラブリーダーを中心に子どもたちで決めています。

## ②子ども会議

イベントを企画するときに、子どもたちに声をかけて、行事の内容を話し合ってきました。子どもたちの意見を尊重しながら内容を決めています。子ども目線の意見も多く出てきて、自分たちが楽しめる企画を話し合います。また、イベントにボランティアとして参加するなど、子どもたちの自主性と協調性が活かされる場になっています。

## ③その他の行事

アリーナが開放されている期間、毎月、『小学生タイム in アリーナ』を開催しました。ドッジボール大会、ドッチビー大会、バドミントン大会、新聞紙雪合戦など、様々な競技に取り組みました。チームプレーで仲間同士助け合ったり、全力で打ち込む様子がみられました。

季節の行事の『夕涼み会』、『クリスマス会』、『お正月お楽しみ会』でも、子どもたちの意見を取り入れながら行いました。『レクダンスを楽しもう』では、高齢者の方と触れ合う機会を設けて多世代交流を行いました。『ハロウィン』では、小学校や地域をまわり、お菓子をもらいました。幼児親子から中学生まで幅広い年齢層の子が参加し、みんな思い思いの衣装を楽しみました。『あき祭り』や『ふゆまつり』では、ボランティアとしてまつりを盛り上げてくれました。

### (2) 来期の課題

子ども一人ひとりの自主性・創造性、社会性、協調性を重視しながら、自分で自由に遊びを見つける手助けをしていくとともに、日々の子どもの様子を観察し、変化を見落とさないように、注意深く見守っていきたいと思います。また、日頃から保護者とのコミュニケーションをとることはもちろんのこと、地域の方々にも協力を仰ぎながら、多くの大人の目で子どもたちの成長を見守っていきます。小学校やひまわりクラブとも情報交換をしながら、連携を密にしていきたいと思います。

## 3. 中・高生事業

### (1) 総括

中高生の中には、開館当時から長年児童センターを利用している子どもたちが多く、職員との信頼関係も強く、職員と会話を楽しむ様子も見られます。『スポーツ大会』や『アリーナをきれいにしよう』などの行事では、仲間との時間を楽しんでいました。また、中高生タイム（6時から7時）では、アリーナでスポーツを楽しんだり、定期テスト前には、職員に勉強を教えてもらうこともありました。アリーナが中高生でいっぱいになるくらい、スポーツをすることが楽しみで訪れる子どもたちが多いため児童センターの特徴だと思います。また、『クリスマスコンサート』、『子どもなつまつり』『ふゆまつり』などの行事に、ボランティアとして自主的に手伝ってくれる頼もしい姿も見られました。

## (2) 来期の課題

アリーナが閉鎖している期間、体を動かす機会が少なくなります。また、利用できる部屋が制限されることもあり、中高生の『居場所作り』が課題になってきます。今取り組んでいる学習支援に力を入れていくほか、中高生タイムの時間を使って、シアターやダンス、ピアノの時間などを取り入れるなど、できる限り子どもたちのニーズに応じていくことで、『居場所』としての役割を果たしていきたいと思えます。

## 4. 地域との連携事業

### ①大風合戦協会との連携事業

毎年、白根大風の本新蝶組に協力していただき、児童センターとして白根子ども風合戦に参加しています。

### ②白根コミュニティ協議会との共催事業

・クリスマスコンサート（前述）

・しろねふゆまつりは、乳幼児親子から小中学生、近隣の方々の総勢 574 名が訪れました。遊び・工作コーナー、販売コーナー、展示コーナー、フードバンクの各ブースに沢山の列が出来ていて、子どもも大人も楽しんでいました。当日は 62 名のボランティアや関係団体の方々がブースのお手伝いをしてくださいました。

### ③白根地区社会福祉協議会との共催事業

・高齢者との多世代交流事業『レクダンスを楽しもう』

「白根健康サークル」の方々の企画で子どもたちとダンスやゲームを楽しみました。

### ④白根健康福祉センター・白根ひまわりクラブ合同事業

・しろねあきまつり

地域の福祉団体やサークルの方々との共催で、9月にあきまつりを行いました。中学校吹奏楽部のオープニングの後、歌やオカリナ、レクダンスの発表、小学生によるハンドベルやダンス発表のほか、販売コーナーや大抽選会など、多くのブースに 1000 人を超える来場者が訪れ、館内はにぎわっていました。遊びブースとして児童センターではおぼけ屋敷や射的、カプラ遊びなどをして遊びました。

### ⑤南区自治協議会との連携事業

・ファミリーダンス教室

ダンスクラブの講師を招いて、ダンスを教わりました。

### ⑥ボランティアとの連携事業

・しろねふゆまつり～多数の団体が参加～（前述）

- ・折り紙教室

毎月1回、季節に合わせた様々な折り紙の折り方を指導していただきます。

- ・スポーツ教室

大学生ボランティアが9月～11月までの計3回、小学生にバスケットを指導してくれました。